

自主性、創造性、粘り強さ・・・ こどもの生きる力を育む「遊び」。

金城学院幼稚園のこどもたちは、朝登園すると思いきいの遊びを始めます。園庭で、お部屋で、1時間半たつぷりと、心ゆくまで。

そこで大切にしているのは、全員を集めて同じ遊びをさせるのではなくこども自らが「やりたいこと」を見つけ、それをとことん、楽しむこと。

保育者の役割は、遊びの環境を整え、必要な時に手を差し伸べること。

さあ、何して遊ぶ？ 児玉芽先生は今日も笑顔でこどもたちを出迎えます。



異年齢のこどもたちが関わりあって遊ぶ。

1984年に大学を卒業。ご縁をいただいて金城学院幼稚園に教諭として就職しました。園のこどもたちの第一印象は「一人ひとりがのびのびと、人らしくいきいきと目が輝いている」こと。4年間学んできた大学では、いわゆる型にはまったプログラムがあって、流れがあって保育をしていくというのを習ったのですが、そうじゃないところがいいなと思いました(笑)。たとえば、縦割り保育。異年齢の子が交流する時間を設けている園はありますが、本園のように日常的に異年齢のクラス編成をしている園は少ない。育ちも年齢も違ういろんな子がいて一緒に過ごすというのは、当たり前なことなんですけど・・・。「遊び」を保育の中心に据えていることも、本園の大きな魅力。異年齢のこどもたちが一緒に遊ぶことで、刺激あい、学びあい、さまざまな力を育んでいます。

こどもたちが「冒険」できる遊び場を作りたい。

1991年、夫の仕事の関係で大阪府箕面市に。箕面市の市民活動が活発だったこともあり、2人の娘の子育てをしながらさまざまな活動に参加しました。絵本のお話し会、子育て講座、なかでも力を入れた

のは冒険遊び場「みのおこどもの遊びを考える会」の設立に関わったこと。子育て中のお母さんの「こどもたちももっと思い切り遊べる場所があったらいいね」という声から始まった活動で、地域の公園を拠点に、泥遊びや木登り、のこぎりを使った工作などを「汚い、危ない」と止めるのではなく「自分の責任で自由に遊ぶ」ことができる遊び場を作りました。冒険遊び場はデンマークで発祥し、日本では最初に東京の世田谷区の羽根木公園に市民主導で実現しました。以前からこの遊び場が面白いなと思っていて、金城学院幼稚園時代もちょこちょこ遊びに行ってはそのエッセンスを園に取り入れていました。上の子が小学校高学年になったのを機に、地域の保育園に保育士として11年勤務。3年前から金城学院大学で講師も務めています。授業を通して学生たちに一番伝えたいことは、保育に正解はないということ。保育は生き物で、臨機応変な対応や瞬時の判断が求められます。唯一の正解を想定していると現場に出た時に苦しくなる。だから、あなたらしい保育を見つけたらいいよ、と。

神さまに愛され、守られながら、これからも。

27年ぶりに本園に戻り、改めて素敵だなと思ったのは、社会の変化



児玉 芽 先生

KODAMA Megumi

金城学院幼稚園 副園長

1984年金城学院大学 家政学部 児童学科卒業。1984～1991年金城学院幼稚園に教諭として勤務。2007～2018年瀬川保育園に保育士として勤務。2018年4月金城学院幼稚園に着任、2019年には同園の副園長に就任。2017年より金城学院大学 人間科学部 現代こども学科(現:現代こども教育学科)の非常勤講師(保育実習指導C・幼児教育指導法)も兼任。

日本保育学会での発表や保育専門誌への執筆、子育て講座の講師なども精力的にこなし、自身の研究成果や保育への思いを伝える。

に応じて変わったところもあるけれど、一番大事なところ「キリスト教保育を軸に、一人ひとりを大切にする保育」が、園の伝統として脈々と受け継がれていること。遊びの中でも、こどもが何を面白がっているのか、何を発見しているのかを保育者が見逃さず、ここ、という時にアプローチする。それはとても難しいのですが、本園の保育者は何気なくやっている。それもすごいなと思いました。保護者や卒園者との深いつながりも、本園の宝物です。

今回のコロナ禍で、私たちがあたり前にやってきた保育がいろいろな形で制限され、私たちが求めている保育の本質が問われました。「愛され、育ち合う」という保育なのに、関わりあうと言われてしまったのですから。この状況でも守らなければいけない保育ってなんだろうと、スタッフで何度も話し合い、試行錯誤の末に、6月から登園を再開。2ヶ月ぶりにこどもたちの賑やかな声が戻ってきたのは本当に嬉しいことでした。

ふり返れば、いつもいろんな人とつながり、いろんな人に助けられながら、こどもたちと関わってきました。これからも、こどもたちが「今日は何して遊ぼうかな」と、目を輝かせて通ってくれる園をめざして、できることを精一杯楽しんでいきたいと思います。

教えて先生!

My Favorite



収穫したカブは浅漬けに。

毎年、園庭の梅の木になった梅で梅干しを作っています。



畑仕事が好きで、箕面市にいた時は市民菜園を借りて野菜を作っていました。園でもこどもたちと一緒に季節ごとの野菜を育て、収穫し、調理もして、給食でいただきます。野菜が苦手なこどもたちも、自分の手で育て、自分で調理した野菜は食べてくれます。

同僚の先生方がコメントを寄せてくれました

Q. めぐみ先生って、どんな人?

生き物にとっても詳しい先生! 虫のことはめぐみ先生へ!!

こどもたちと一緒に遊びを思いっきり楽しむ先生。年齢を感じさせない(笑)。

こどもだけでなく、ザリガニ、虫、植物、野菜、果物などにも愛情いっぱい!

絵本の造詣が深く、面白い絵本をよくご存知です。

関西弁で読む絵本は、ほぼネイティブな関西弁で読んでくださいます。

熱い思いを持ち、こどもたちと同じ方向を見て歩んでいます。

こどもたちと笑い転げている姿は、とってもチャーム!!

いつも動き回っていて、とてもパワフル!!

いつも真剣に子どもたちと向き合い、取り組んでいます。